ミニストップ株式会社2002

2002 MINI STOP Environmental Report

環境報告書 2002年度

2002 MINISTOP Environmental Report

環境報告書 2002年度

コミットメント（できることを 確実に）……1
会社概要……2
お客さまとの座談会……3
エコロジカルなコンビニエンスストア……5
エコハイライト2001……7
ミニストップ環境目標……8
商品の取り組み（その1）……9
商品の取り組み（その2）……11
店舗の取り組み……13
物流の取り組み……15
廃棄物削減の取り組み……16
環境マネジメントシステム……17
環境会計……18
教育・啓発……19
社会とのコミュニケーション活動……20
コンビニエンスストアへのQ&A……21
第三者意見書・編集後記……22

できることを 確実に

２００２年３月に、東京都杉並区の環境目的税（レジ袋税）条例が可決されました。家電リサイクル法に続いてお客さまの生活の身近なところで環境問題の対策が待ったなしで押し寄せてきていることを象徴する出来事と言えます。これまでコンビニエンスストアはお客さまの生活スタイルの変化に合わせて様々な新商品を開発・販売し、便利さを提供してきました。そして多くのお客さまの支持を得て、成長を続けることができました。

しかし、便利さや鮮度管理を追求してきたために、使い捨ての商品が増え、販売期限切れの商品の廃棄が発生し、環境に負荷を与えていることも事実です。便利さの追求だけではなく、環境への負荷を軽減することに今まで以上に取り組まなければ、企業としての存続が成り立たないことを自らの命題として認識しなければなりません。

ミニストップでは持続性のある環境マネジメントシステム構築と、わかりやすく信頼性のある情報公開に取り組んでまいります。「できることから　ひとつずつ」を一歩前進させ、「できることを　確実に」取り組んでまいります。

お客さまサービス部部長　兼　環境推進部部長
川越 靖史

１９９８年にお客さまサービス部を設立、２００１年３月から環境推進部を兼任。現在に至る。趣味は川釣り（鯉専門）。環境ホルモンの影響で鯉も年々減っています。釣った魚はすぐに放しております。

目的別見出し

1. まずは、ミニストップの環境への取り組みの考えを知りたい場合
➡ P3～4およびP21をご覧ください

2. ミニストップの会社概要と環境分野の活動内容を知りたい場合
➡ P2～P8をご覧ください

3. ミニストップの環境分野の活動内容をより詳しく知りたい場合
➡ P9～22をご覧ください

編集方針・新たな取り組み・概要

【編集方針】

1.ミニストップで取り組んでいる環境保全活動を、どなたにでもわかるように制作しました。そのために紙面による報告内容を抑え、webを活用して報告します。
2.お客さまとのより深い双方向コミュニケーションを目指して、お客さまからのご意見・ご質問に対してトップや担当者からの回答を掲載します。
3.できるかぎり定量表現に努め、真摯な情報公開を行います。

【新たな取り組み】

1.お客さまと会社のトップとの直接対談によって、双方のダイレクトなメッセージを掲載しました。→P3～4
2.ミニストップの商品がお客さまの手に渡るまでのフローを掲載しました。→P6
3.環境マネジメントシステムを再構築すべく、ISO14001認証取得に対する考え・組織図を掲載しました。→P17
4.お客さまを代表したNGOの「コンビニ調査」の提案に対する、ミニストップの考えを掲載しました。→P21

【報告概要】

1.対象期間　2001年3月1日～2002年2月28日（当社2001年度に該当します）
2.対象範囲　ミニストップ株式会社および加盟店店舗。なお、一部記載内容においてはミニストップ株式会社とエリアフランチャイズ契約を結んでいる国内の以下の会社の加盟店店舗も含まれます。

- エヌ・ビー・ジーエムエスネットワーク株式会社（青森県・岩手県）
- ミニストップ近畿株式会社（大阪府・奈良県）
- ジェイアール四国エムエスネットワーク株式会社（香川県）
- 株式会社ルマックス（福岡県・佐賀県・大分県）

3.「環境報告書ガイドライン（2000年度版）」、GRI（Global Reporting Initiative）の「持続可能性報告のガイドライン」を参照して作成しています。

会社概要

●名称
ミニストップ株式会社

●事業内容
コンビニエンスストアに店内加工ファーストフードを組み合わせたコンボストア「ミニストップ」のフランチャイズ方式によるコンビニエンスストア事業

●代表者
代表取締役　会長　陶山　勝
代表取締役　社長　横尾　博

●設立
1980年5月21日

●資本金
74億91百万円

●上場証券取引所
東京証券取引所市場第一部（1996年8月1日上場）

●本店
〒101−0054　東京都千代田区神田錦町1−1

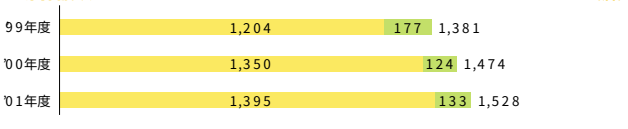
●本部事務所
〒261−8540　千葉県千葉市美浜区中瀬1−5−1

●従業員数　（名）

●売上高（加盟店を含む）　（百万円）

●経常利益　（百万円）

●店舗数　（店）



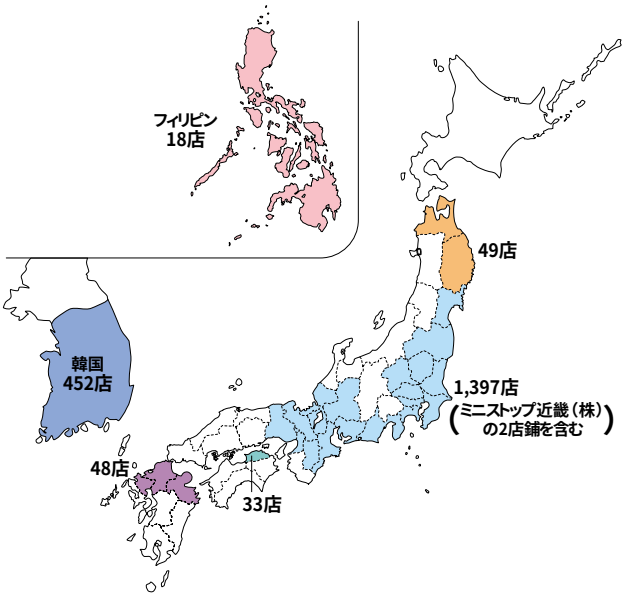
※2002年2月末日現在
※売上高と経常利益は単体ベースになります。

●ファーストフードメニュー（店内加工）

パニーニ　ベーコンエッグ

ソフトクリーム（バニラ）

●店舗エリアマップ（新規事業店舗をのぞく）



- ミニストップ（株）
- ミニストップ近畿（株）
- エヌ・ビー・ジーエムエスネットワーク（株）
- ジェイアール四国エムエスネットワーク（株）
- （株）ルマックス
- 大象流通（株）
- ロビンソンズ・コンビニエンス・ストアーズ・インク

Stakeholder Dialog for the Future

お客さまとの座談会

**コンビニエンスストアを日常ご利用されている環境意識の高い
お客さまにお集まりいただき、これからのコンビニエンスストアについて、
そして日頃感じている疑問などを率直に話し合っていただきました。**

（この座談会は2001年12月25日に実施しました。）

ミニストップ株式会社　代表取締役社長

横尾　博

出身地／京都府　**出身校**／帯広畜産大学　**特技**／乗馬（大学時代は馬術部でした）今年は馬年ですからぜひ乗りたいですね。　**趣味**／●月1回の上野公園ボランティア清掃で身も心もリフレッシュ。●最近は、とある方に頂いた手作りの箸袋がきっかけで、マイ箸を使うようになった。●毎週日曜日の早朝に妻と一緒に約1時間かけて5キロ、約9,000歩のウォーキング。このことにより、自宅の近くの公園や海岸が身近に感じると共に、冬には多くの鴨が海辺に飛来してくることを発見。また家庭のことや子供たちのことを妻と2人で語り合える時間にもなっている。**座右の銘**／真

横尾　コンビニエンスストアとは、名前が示すとおり、「便利な」お店です。しかし、お客さまのご要望をすべて取り入れますとどうしても過剰サービスになってしまいます。環境の面からも無駄が多くなりがちです。今、「便利さ」を真剣に見直す時期に来ていると思います。

福島宏希さん　理工学部で2重構造のエコ容器を使ってみました。食後に内側に貼られたフィルムをはがし、外側の紙を古紙リサイクルに出します。重量比9割はリサイクルできますが、コストが高くなるんです。共同仕入れによって安くできませんか？

横尾　お客さまに実際に買っていただけるかが一番の問題です。弁当1個あたり30円高くなったとして、選んでもらえるかどうか。弁当の中身を充実させていくと価格調整で容器にしわ寄せがきやすいのです。

鈴木さん　今後店舗で使う電気を自然エネルギーのものに変えていくことは考えていませんか？

横尾　技術の革新を待ちながら検討していかなければいけないと考えています。コンビニの店舗だけでなく、地域単位で変わっていく可能性がありますね。

仲宇佐さん　深夜帰宅することが多い人にとってはコンビニの明るさは防犯上安心感がありますね。

横尾　警察の方からもこども110番などで何かあったらコンビニに飛び込みなさいとの話があります。安心できるコンビニ、地域の基地としての役割も出てきていると思います。また、年配のお客さまなど一人で住んでいらっしゃる方は店舗がコミュニケーションの場となって、話をしながら何か商品を買っていかれます。

中村さん　介護のステーションと連携してお届けものをするとか、そういう可能性もあるんじゃないかと思います。よく宅配便のサービスを利用していますが、直接モノを買うお客さんに比べて対応が少し冷たい気がします。モノだけでなくサービスを提供するといった意識についてお伺いしたいのですが。

横尾　「お客さまサービス部」へ週に200件くらいご意見や苦情をいただきます。同じご意見が続く場合には、店舗の問題ではなく我々全体の問題です。全加盟店に情報を流してマニュアルの見直しなどを行っています。営業力の高い店にするには、教育が一番重要だと思っています。

仲宇佐さん　食品の保存料をなくす方針ということですが、

エコリーグ（全国青年環境連盟）理事　事務局長
木村 奈津子さん
環境問題を学べる大学を選ぶための相談会、就職相談会の開催などを担当しています。慶應義塾大学4回生です。

コンビニの環境改善を考える学生の会　代表
福島 宏希さん
東京近郊7大学の環境サークルの有志を組織して、コンビニエンスストアの環境対策についての調査を行い、各社に提案を行いました。早稲田大学理工学部3回生です。

フリーライター
仲宇佐 ゆりさん
雑誌や新聞でフリーライターをしています。コンビニに頼ることの多いシングルの女性として、一消費者の意見を述べさせていただきたいと思います。

国際青年環境NGO A SEED JAPAN 事務局長
鈴木 亮さん
青年の環境NGO A SEED JAPANの事務局長をしています。環境問題を広く浅く、国内のごみ拾いから貿易会議についての議論まで扱っています。

今後、他の添加物についても何か考えていますか?

横尾　着色料ではすべての商品について天然着色料への転換が終わっています。合成保存料は2002年2月か3月くらいまでになくし、天然保存料に切り替える計画です。(注)保存料以外にも数々の添加物がありますが、添加物の種類や使用量の削減に取り組んでいこうと考えています。塩漬け、砂糖漬けは、なかなか腐らないように、調味料は元々保存料に近いわけです。しかし保存料を使わないためにおかずの塩分が濃くなる、ということは避けたいのです。お弁当を作ったとき調味料やひとつひとつの原材料まで管理することが要求されるようになっていますね。出身が畜産大学だったので、BSE問題にもたいへん関心がありますが、最大の問題は飼料、代用乳をどこから輸入したのかわからないことです。

(注) 2002年3月に切り替え完了しました。

主婦&フリーライター
中村 数子さん
主婦とともにフリーライターを仕事にしています。産業社会のなかで便利さが取りこぼしたものについて書くことが自分のテーマになっています。

ネットワーク地球村
福島 孝司さん
環境と平和のNPOネットワーク『地球村』を通じ、未来の子供たちが安心して暮らせる社会の実現に向けて、啓蒙・啓発活動をしています。

イオン環境理念

私たちイオンは、「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というグループ理念のもと、企業市民としての社会的責任を果たすため、社会貢献活動と環境保全活動を積極的に推進していきます。
同時に私たちは、これらの活動が地域に根ざしたものであると認識し、地域の方々とのパートナーシップを育み、循環型社会の構築を目指します。

ミニストップの環境理念

私たちはこの地球がいつまでも美しく平和であることを願い、企業市民として小売業を通じ、地域社会との共生につとめ環境保全活動に積極的に取り組んでまいります。

環境宣言

1.商品の開発、選定にあたっては環境に配慮いたします。
2.廃棄物の削減、リサイクルを推進いたします。
3.物流の効率化や低公害車の導入により大気汚染防止につとめます。
4.店舗やオフィス活動では省エネルギー・省資源に取り組みます。
5.緑化や植樹など自然保護活動に取り組みます。

鈴木さん　環境負荷を低くするための案をコンビニ各社の環境対策部に持っていき、公開討論を行ったことがあります。そこで出た結論はコンビニでできる努力はすべてやっているということでした。お弁当の添加物についても、あとは消費者が買ってくれるかどうかですね。

木村さん　働いている方が環境についての意識を持っていないと、会社として取り組みをしていてもなかなか消費者には伝わっていかない部分もあるかと思います。

福島孝司さん　消費者が行動に移すには環境問題の現状をきちんと伝えることが必要ですね。店舗の「食べられる・みんなが集うスペース」を活用して情報発信してはどうでしょう。啓発活動が「特定の市民や市民団体のやること」から「企業も市民もみんなが発信すること」に変化することで大きく広がるのでは。グリーン商品の必要性も感じてもらえます。

横尾　昨今、海外で安い商品を作って日本で販売するという事例が増えていますが、現地の操業環境が劣悪だったり、その地域をたいへんな勢いで汚染しています。商品にはそういった環境問題が凝縮されているんだ、という認識をしていかなければならないと思います。売る人間は、そこまでさかのぼって商品に対する責任を持てるのか、と問われているからです。お客さまに信頼していただけるような商品開発をしていかなければなりませんし、営利よりも優先させることが求められているのだと思います。

Towards an Environment-friendly Convenience Store

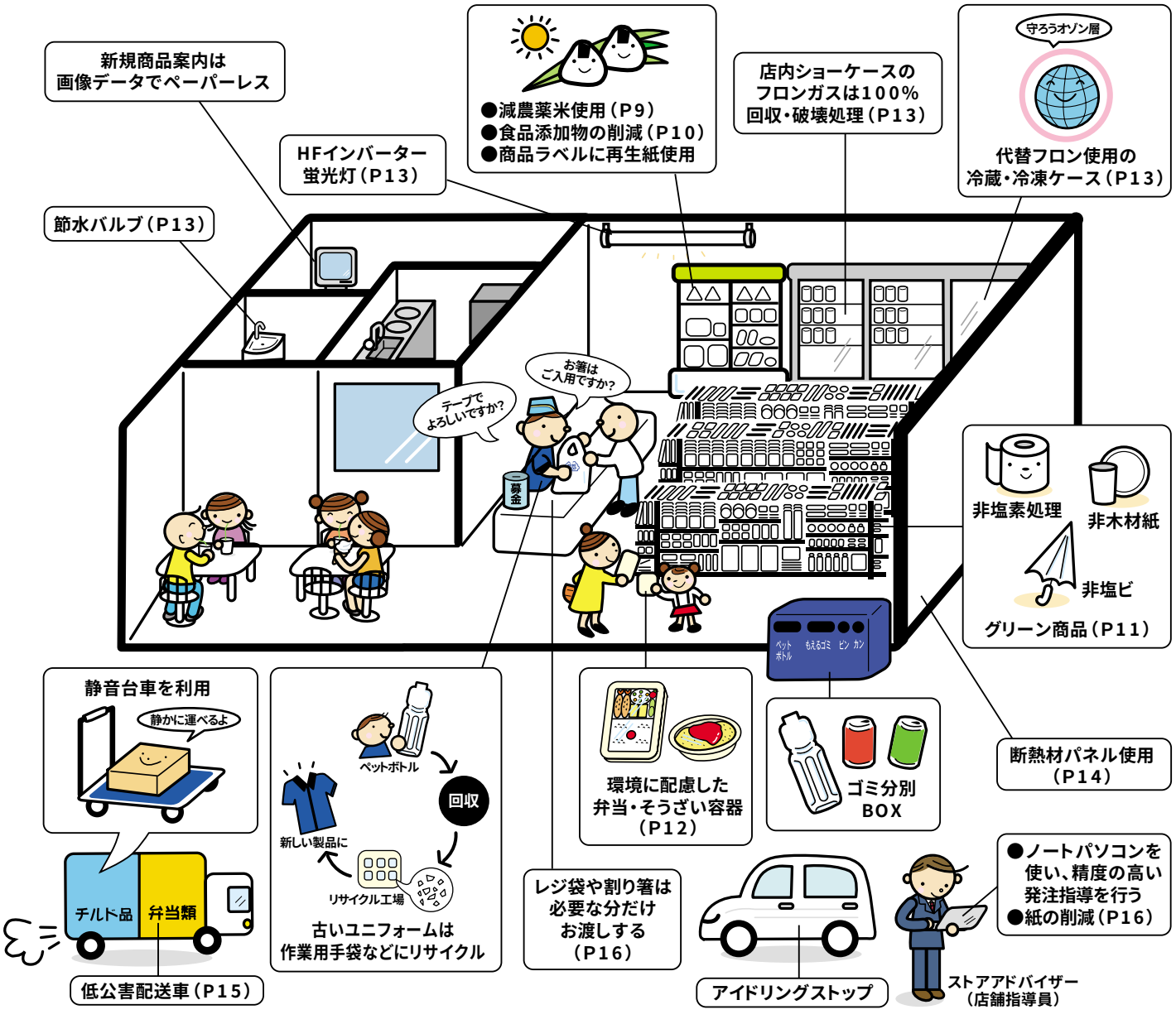
エコロジカルなコンビニエンスストア

ミニストップはこんなコンビニです

ミニストップはコンビニエンスストアの中でファーストフードが買えるユニークなコンボストア※。店内にフライヤーやオーブンなどの調理設備や客席があるので、できたての本格的ファーストフードがその場でお召し上がりいただけます。商品は「健康・安全・安心」を第一に考えて開発を行っています。物流や店舗レジシステムなどは常に最適化・効率化に取り組んでおり、環境負荷を最小限にする様々な工夫や取り組みをしています。

※コンボストア=コンビニエンスストアにファーストフード店の要素をプラスした店舗のこと。ミニストップによる造語。

ミニストップはこんな環境配慮をしています



ファーストフード商品本部　商品開発部
小野寺 晴美

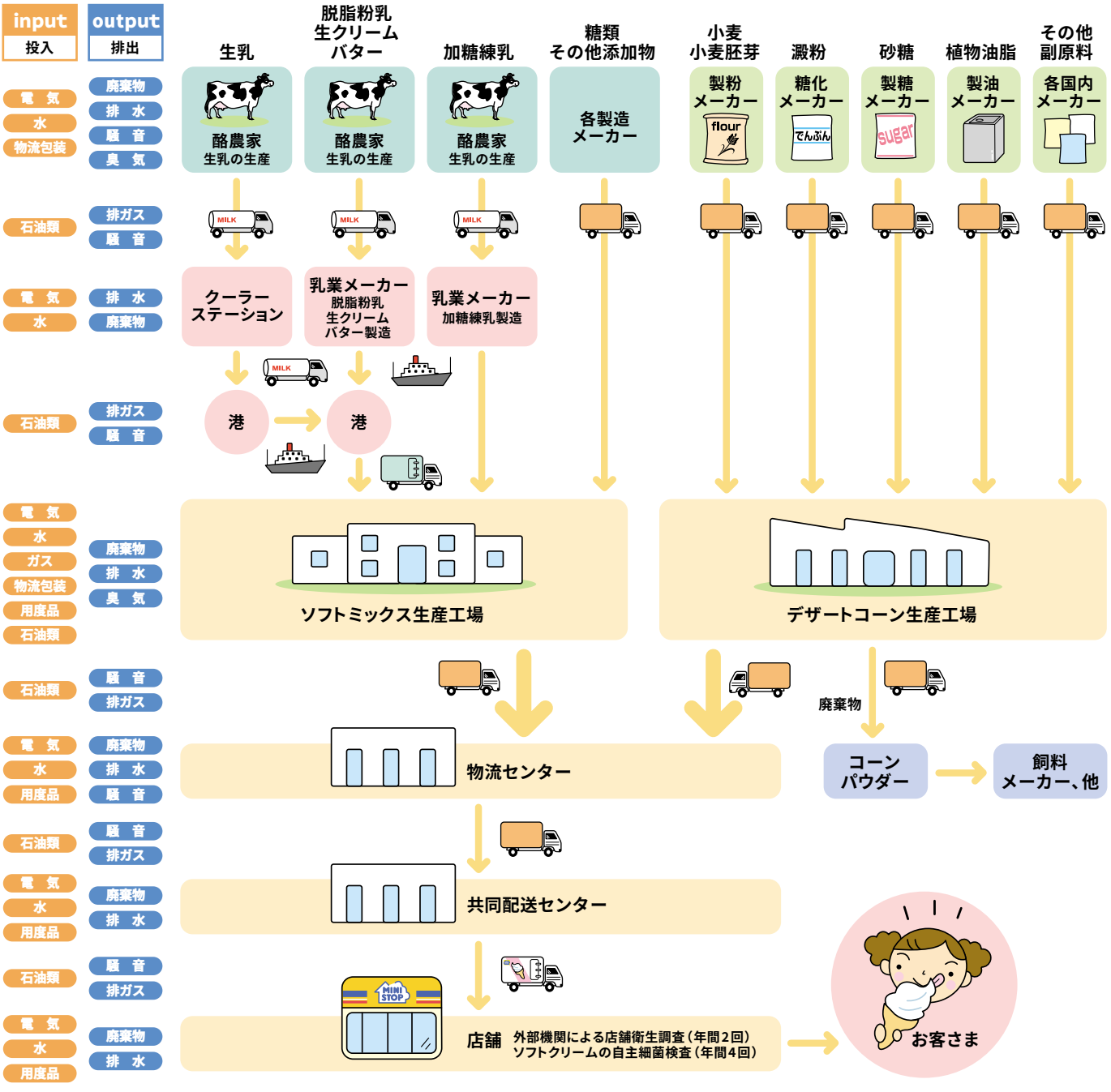
ソフトクリームやハロハロなどのデザートの開発をしています。開発担当になった頃よりも、皆さまに「美味しい!」と言われるだけではなくて、なるべく余分な添加物を使わずに素材本来の味を生かした商品をご提供できるように心がけるようになりました。

ミニストップの商品がお客さまのお手元に届くまで（ソフトクリーム編）

お客さまに「安全・安心・便利」な商品やサービスをお届けすることはミニストップの使命です。そのために、ミニストップは原材料にさかのぼって安全性を確認して商品開発を行っています。

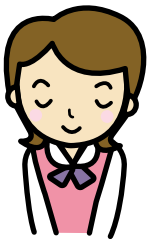
今後の課題

1. 安全性の追跡確認（トレサビリティ）を深めていくこと
2. 物量の投入（インプット）と排出（アウトプット）を把握すること



Environmental Highlights 2001

エコハイライト2001



環境担当の岡村です。環境保全活動を紹介します。よろしくお願いします。まずは2001年度のエコハイライトと2002年度の目標を発表します！

商品

「トップバリュ」がお求めいただけます

イオン（株）が企画したプライベートブランド商品「トップバリュ」を積極的に品揃えし始めました。

「トップバリュ」の環境配慮型商品「共環宣言」、健康に配慮した「グリーンアイ」ブランドの商品がミニストップでもお求めいただけるようになりました。

水きりゴミ袋は回収ペットボトル約80%使用

オフィス

ペーパーレス化が進んでいます

店舗指導員一人ひとりにノートパソコン（携帯端末）を配布して、店舗の営業指導のツールとして利用しています。また、店舗では本部からの情報を画像で受信できるようになりました。そのため、紙の使用が減りました。

移動先ではノートパソコンを活用

店舗

環境配慮型の店舗を考えています

新たな省エネ機器の導入や環境に配慮した建築資材を採用しました。また、環境と経済性に配慮した「エコロユニット」工法のその後を報告します。

建設中のエコロユニット

入り口にもエコマーク認定タイルを使用

教育・啓発

自治体と協力して環境問題を考えています

各地自治体からの要請に対してJFA（社団法人　日本フランチャイズチェーン協会）などを通して環境問題の啓発・アピールに協力しました。

コミュニケーション・社会貢献

店頭で募金活動を行いました

小学校への花の寄贈から、カンボジアやアフガニスタン、米国のテロによる被災者などを支援する様々な店頭募金活動を行いました。お客さまからのご厚意によって募金総額は1,370万円を超えました。

ありがとうございました。

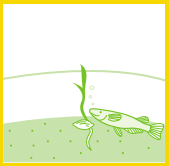
小学校へ送った案内状

物流

アイドリングストップを推進しています

配送車にGPSを搭載したシステムを設置し始めました。このシステムは、アイドリングストップを定量的に把握できるためドライバーへのきめ細やかな直接指導が可能になりました。

ミニストップ環境目標



取り組みテーマ

- ＝人の安全
- ＝汚染物質の削減
- ＝地球温暖化の防止
- ＝オゾン層の保護
- ＝森林保護
- ＝廃棄物削減
- ＝教育・啓発
- ＝コミュニケーション・社会貢献

自己評価

★★★……目標ほぼ達成
★★……目標達成まで もう一息（50～80%）
★……目標未達（50%以下）

	2001年度の環境目標	自己評価	2002年度の環境目標
商品	遺伝子組み換え食品の自主基準の決定	★★	遺伝子組み換え食品の自主基準・意思決定内容を公表
	原材料・栄養成分・アレルゲンに関する情報公開	★★	ファーストフードの原材料・アレルゲンに関する情報公開
	食品添加物の削減（ファーストフードの合成着色料）	★★★	使用している素材の産地を明確にし情報公開　まずは米
	減農薬・減化学肥料野菜の使用	★★★	環境配慮型商品（グリーン商品）の「定番」登録数を増やす（10アイテム）
	環境配慮型商品の品揃え拡大	★★	
	環境配慮型食材・資材の採用	★★★	環境配慮型資材の採用（5アイテム）
店舗	廃材マニュフェスト管理の推進	★	廃材マニュフェスト管理の推進（90%の店舗）
	HFインバーター蛍光灯の本格導入（新規開店店舗）	★★★	消費電力の削減のための機材導入（100店舗）
	消費電力の削減	★	エコロユニット店舗の出店（40店舗）
	エコロユニット30店舗出店→（実績は14店舗）	★	厨房内冷凍庫のフロンを代替フロンに切替え 2001年度からの2ヵ年計画（今年度終了予定）（200店舗）
	厨房内冷凍庫のフロンを代替フロンに切替え（2ヵ年計画）	★★	
	生ごみの分別推進、減量化	★	生ごみの分別減量化の実験（20店舗）
	本部からの配布資料をペーパーレス化	★★★	
物流	車輌搭載システムの実験開始（騒音防止対策）（アイドリングストップ対策）	★★★	車輌搭載システム改め統合輸配送管理システム導入車の増加（232台）
			低公害ディーゼル車両への入れ替え（40台）
オフィス	節電の推進	★	節電の推進（エアコン温度設定、照明消灯推進）
	グリーン購入のシステム化（文具・消耗品）	★	グリーン商品（文具から）購入システムの利用拡大（主要5事務所）
	コピー用紙裏面利用の推進	★	コピー用紙裏面利用の推進（主要5事務所）
	社内文書の電子化	★	社内文書の電子化
教育・啓発	環境目標を社員の業績評価と連動	★★★	環境目標を社員全員の業績評価と連動させる
	新入社員への環境教育実施	★★★	環境に影響を与えやすいSAへの環境教育の実施（年3回）
	オーナートレーニング時の環境教育実施	★★★	ISO14001の認証を取得する
	ミニストップメイト誌上で環境問題・取り組みの紹介（年6回）	★★★	店舗従業員向け環境教育・啓蒙ツールの作成、配布
	商品売場説明会での啓蒙活動（年2回）	★★★	
コミュニケーション・社会貢献	上野公園清掃活動の実施の継続	★★★	
	花の輪運動の実施の継続	★★★	花の輪運動の寄贈校を増やす（400校）
	地雷ZEROキャンペーンの参加	★★★	カンボジア学校建設支援募金を実施し、学校1校を寄贈する
	エコロジーミュージカル「瓶ヶ森の河童」公演への協賛・運営協力	★★★	レジ袋に環境保全メッセージを印刷・発信
	カンボジア学校建設支援募金活動	★★★	NGO／NPOとのコラボレーション企画の立案・実行
	八幡学園バザー参加	★★★	
	減農薬米田植えツアー・稲刈りツアー実施	★★★	
	割り箸・レジ袋などに環境保全メッセージを印刷・発信	★★	

Programs for Products 1

商品の取り組み（その1）

「健康・安全・安心」な食糧問題と環境問題は切り離せない事柄です。　そんな商品提供の取り組みをご紹介します。

減農薬野菜の使用を開始

２００１年７月から野菜の中で最も使われるレタスを減農薬レタスに切り替え始め、２００２年２月までの８カ月間で約７５.６tの減農薬レタスを使いました。これはハムサンド１,２６０万個※に相当します。

基準管理をより厳しくするため、「ミニストップ自社基準」を見直ししています。

※ミニストップのハムサンドには、約６gのレタスが入っています。

減農薬米の使用

１９９７年から弁当などに減農薬米を試験的に使い始め、使用地域と商品群を拡大しました。現在はミニストップで販売している弁当、おにぎりなどのすべての米に減農薬米を使っています。

ミニストップでは管理基準を設け、種子消毒から除草剤にいたるまでのすべてにおいて、農薬の種類と使用量を把握し、残留農薬検査（カドミウム含む）を行っています。

減農薬米の使用実績（玄米ベース）

生産年度（年）	1997	1998	1999	2000	2001
使用実績（t）	2,000	4,000	6,000	8,000	8,500

●２００２年度は9,000t使用する見込み

●減農薬米使用
●合成保存料不使用
●合成着色料不使用

遺伝子組み換え食品について

遺伝子組み換え食品は、近い将来に発生するかもしれない食料危機を救済するものとして嘱望されている一面があります。しかし、人体への安全性や栽培を行う環境への影響については、まだまだ明らかな見解がありません。

ミニストップでは２００１年２月下旬より改正ＪＡＳ法で指定された遺伝子組み換え食品を、原材料として使わない方針で商品開発を行っています。遺伝子組み換え食品かどうかについて、商品開発時には原材料品質規格書によって確認しています。

遺伝子組み換えでない大豆を使用

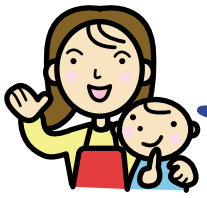
BSE（牛海綿状脳症）対策について

ミニストップではEU基準などを参考に、牛肉原料および牛由来成分まで含めた自主基準を２００１年９月に作成しました。

自主基準策定以降、現在にいたるまで自主基準外原料を排除し、一部の商品の販売を中止しています。今後も継続監視を続け、お客さまに安全な商品をご提供します。

牛肉および牛由来成分の原材料使用に関するミニストップの見解

1. 日本国内産の３０カ月齢以上の牛肉は原材料として使いません。
2. ２００１年９月時点では発症例のないアメリカ産牛肉を継続使用します。しかし、より安全性の高いオーストラリア／ニュージーランド産などの牛肉に切り替えを進めます。
3. WHO（世界保健機関）が指定する、感染の危険性がある部位（脳・脊髄・眼・脊髄液・回腸・ひ臓・胎盤・リンパ節など）は使いません。
4. 牛由来成分（ビーフエキス・アミノ酸・ゼラチンなど）は、プリオンの不活性化条件（１３３℃２０分３気圧で加熱）などを満たした製造方法のものを使います。



Q 減農薬野菜って何のこと？

A 栽培期間中に化学肥料や農薬を一定割合減らした農産物を指します。「減農薬栽培農産物」は、農薬の使用回数が、慣行的に行われている使用回数のおおむね５割以下で生産された農産物のこと。ただ、通常で散布している農薬や化学肥料の種類や使用量が不明確な部分もあるため、ミニストップでは新たな基準を決めてお客さまへの安全・安心をはかることにしました。

お客さまの「健康・安全・安心」を考えて 保存料の削減をはじめ添加物の総量の削減を目指しています。

常務取締役　商品本部長
郷田庸憲

ミニストップでは、お客さまに安心してお買い物していただけるよう、商品情報の公開を行っています。特にアレルギー症状を引き起こす恐れのある食品についてもきちんと明記するようにしています。

栄養成分表示

1996年に施行された一部改正栄養改善法に準じた表示を実施しています。

アレルゲン表示

改正JAS法によってアレルギー症状を発症する原因となる食品は、微量であっても表示することが定められ、厚生労働省が義務化を定めた5種類の食品と任意表示を定めた19種類の食品、計24種について、ミニストップでも表示を実施しました。商品開発時にアレルギー原因食品かどうかを原材料品質規格書で必ず確認しています。

原材料表示

1999年に成立した改正JAS（日本農林規格）法によって、弁当などにも主原材料の表記を実施しました。商品中で重量の多い順に原材料を表示しているため、重量的に一番多く占められている材料の確認が可能です。

食品添加物表示

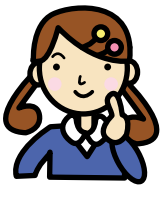
食品添加物の種類や使用量を削減しました。2001年夏までに化学的に合成された（通称:合成）着色料から天然由来の（通称:天然）着色料に切り替えました。化学的に合成された保存料は、全オリジナル商品を対象に2002年3月に天然由来の保存料に切り替えました。天然由来の保存料の廃止については、原材料の段階からお客さまが購入されるまでの間の温度などの品質管理をいっそう厳しく行っていく必要があり、今後の検討課題です。

容器の材質識別表示

再生資源利用促進法では、ごみの分別を進めるべく、「紙」と「プラスチック」の容器包装の材質を表示することが義務づけられました。ミニストップでは2002年2月末から、すべてのオリジナル商品やレジ袋などに材質識別表示を実施しています。

アレルギー原因食品

義務表示の食品	小麦・そば・卵・乳・落花生
任意表示の食品	あわび・いか・いくら・えび・オレンジ・カニ・牛肉・キウイフルーツ・くるみ・さけ・さば・大豆・豚肉・まつたけ・もも・やまいも・りんご・ゼラチン・鶏肉



Q 食品添加物は体によくないの？

A 現在日本で使用されている添加物には、着色料、保存料、調味料、PH調整剤、酸化防止剤、発色剤など使用目的別に、合成添加物が351品目、天然添加物が1,051品目あります。偏食せずにバランスのよい食事をしていれば、体への影響は大きくありません。でも、できるだけ摂らないにこしたことはありませんので、添加物の少ないものを選ぶなど現在の食生活を見直してみませんか。

Programs for Products 2

商品の取り組み（その2）

グリーン商品とは、再生素材を使うなど環境負荷が低く、健康や安全に配慮した商品のことです。

ミニストップで買えるグリーン商品

２００１年度に品揃えをしたグリーン商品は、４４アイテムでした。ミニストップではグリーン商品を以下のように考えて品揃えしています。

1.エコマーク認定商品
（例）再生プラスチックを使ったボールペン
2.グリーン購入ネットワークの基準をクリアした商品
（例）バガスの使用比率を高めて木材原料を減らしたティッシュペーパー
3.1と2に含まれないが、既存品に比べて少しでも環境に配慮している商品
（例）中の台紙を古紙配合１００％の再生紙を使ったパンティストッキング

ボールペンと修正テープは再生プラスチックを使用

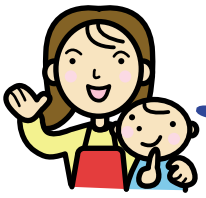
使いきりカメラはリユース・リサイクルされているオリジナル商品

天然ゴム使用によりダイオキシン発生を抑えた軍手

品質はそのままで再生紙約40％以上使用のクラフトテープ

水きりゴミ袋は回収ペットボトル約80％使用

水銀・鉛ゼロのアルカリ電池



Q グリーン購入と調達は何がちがうの？

A グリーン購入は「事務用品などオフィスで使用する商品やサービス」を対象とし、価格やデザインよりも環境負荷ができるだけ小さいものを優先しています。またグリーン調達は、「ミニストップが商品・サービスを提供するために他社から購入した原料や資材」が対象です。お取引先にも環境に配慮してもらうことで、エコロジーの輪が広がります。

容器への環境配慮

環境に配慮した容器は、容器の価格が高いために商品自体の価格を上げてしまう場合が多々あります。また、お客さまにとって使い勝手が悪いことも少なくありません。

ミニストップでは2000年から環境に配慮し、かつ、お客さまがご利用しやすい容器を使って商品開発を行っています。「できることから少しずつ、でも確実に」環境に配慮した容器の使用を少しずつ拡大していきます。

●2001年度使用例

1. グラタン全商品……2001年2月に埼玉西部および東京多摩地区において葦を使った容器で商品展開し、2001年10月から全国で取り扱いを始めました。
2. 99円菓子（ミニストップオリジナル商品）……外袋への印刷は水性インクを使っています。有機溶媒を使用していないためダイオキシン類の発生を抑えることができます。

ミニストップオリジナルの99円菓子シリーズ

パンティストッキングの中の台紙は再生紙を使用

葦（あし）を使った容器を使用

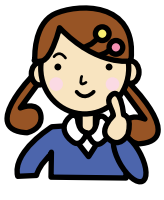
ミニストップでは、環境負荷がより低い葦（あし）※を使った紙容器で、グラタンの商品開発を行っています。2002年2月までに約60万食出荷しました。

グラタン全商品で葦を使った容器を利用していますが、他商品に利用することは難しいところです。2000年3月に弁当に葦を使った紙容器を利用したことがありましたが、「ごはんがくっついてしまい食べにくい」というご指摘をお客さまからいただいた経緯があるからです。

葦の紙容器を使うことによってグラタンの価格を上げることはありません。また、中身が容器にくっついてしまって食べにくくなることもありません。

そのような意味では、葦を使った容器は環境に配慮しつつもお客さまの便利（コンビニエンス）に配慮した商品の典型と言えましょう。

※葦（あし）……水辺で生育するイネ科の多年草。秋になるとススキのような穂を出します。稈（かん　茎の一種）は、すだれなどの原料になります。
（三省堂「大辞林」第二版より）



Q 容器包装リサイクル法って？

A 日常生活からでる一般のごみのうち容器包装は約60%(1997年)にもなり、処分場や費用負担が深刻な問題です。そこで、ごみの量を減らすために、1997年に「容器包装リサイクル法」がスタートしました。ミニストップでは、レジ袋やファーストフード用容器包装などのリサイクル費用を負担しています。

Programs for Our Stores

店舗の取り組み

店舗では消費電力の削減やフロンガスの適正処理、節水などに取り組んでいます。

※CO_2排出抑制量を算出するための係数として0.384kg-CO_2/kWhを利用しました。(環境省「環境影響評価プログラム」より)

フロンの適正処理

「温室効果ガス」のひとつであるフロンは、ほとんどの冷凍・冷蔵庫やエアコンの冷媒として使われています。

そこで、店舗の開店・改装閉店・閉店時に、より温室効果の低いフロンに切り替えています。また、既存機器でのフロン入替も実施しています。そして、行政から認可された専門業者に適正な回収・破壊処理を委託しています。

破壊されたフロン量
R22(代替フロン) 0.897t　　R502(特定フロン) 0.137t

省電力の取り組み

1) 電圧調整装置(ミニセーバー)

電気の使用によるCO_2の排出は地球温暖化を促進する要因になります。消費電力を抑え、見た目に明るさの変化がない96Vになるようにコントロールする「電圧調整装置」を設置しています。※1

設置店舗数の推移とその効果

	設置店舗数 ※2	削減した電気総使用量(kWh)	排出抑制したCO_2量(t-CO_2)
1999年度	454	4,261,244	1,636
2000年度	500	4,693,000	1,802
2001年度	547	5,134,142	1,971

試算条件 1店舗あたり9,386kWhの電気使用量の削減効果があります。

※1) ミニストップでは電気法や各地の電力会社に従った電圧調整装置のみを使っています。

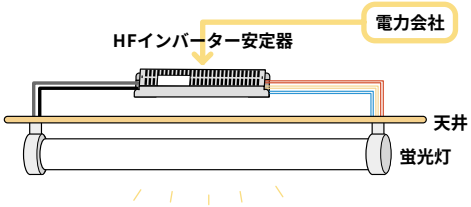
※2) 従量電灯の電圧が低い地域で節電効果があまり見込めない店舗、HFインバーターを先に設置した店舗は、電圧調整装置を設置していません。そのため設置店舗数が大幅に増えることはありません。

2) 省電力型の蛍光灯

①HFインバーター

高周波点灯蛍光ランプ(HF)を使用した蛍光灯を2001年4月から導入しました。照度を落とさずに、1店舗あたりの電気使用量を年間138.215kWh(約19.1%)削減できます。

HFインバーター蛍光灯設置店舗数　104店舗
排出抑制されたCO_2の量　5.0t



②ルミコンインバーター(実験導入)

従来の蛍光灯の銅鉄型安定器を電子式安定器に交換する実験を2店舗で実施した結果、25～30%の省電力効果が得られました。

3) 動力対応省エネ装置(実験導入)

コンプレッサーを30分に3～4分半ほど停止させるシステムを1店舗で設置して実験を行い、空調機と冷凍機の能力を落とさずに電気使用量を年間12～15%削減できました。

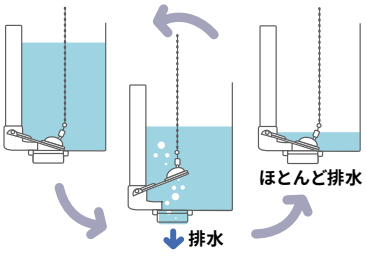
節水バルブの導入

2001年11月から、店舗のトイレに節水バルブの設置を開始しました。

節水バルブ設置店舗　290店舗　　節水できた水量　11,692,800ℓ

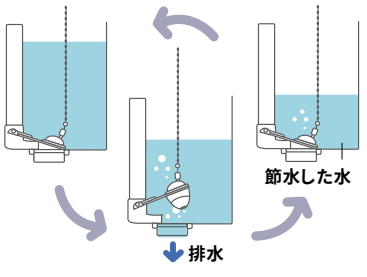
従来バルブ

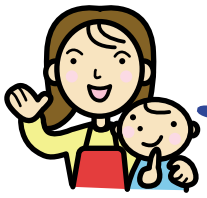
レバーを回すとバルブが持ち上がり、水が流れます。バルブは中に閉じ込められた空気によって持ち上がっている為、水位がバルブの位置に下がるまで浮いたままになっています。



節水バルブ

レバーを回すとバルブが持ち上がり、水が流れます。節水バルブは持ち上がると底にある水量調節キャップから水が入り、空気が押し出されますので、従来バルブより早くバルブが閉じます。節水バルブは初期水圧〈排水能力〉を落とさずに、節水量をコントロールしているので、今まで通りの洗浄効果が得られます。





Q CO_2はどのくらい減らせばいいの?

A 先進国のCO_2など温室効果ガスの削減目標を定めた京都議定書では、日本は2008年から2012年までに6%削減(90年比)が義務づけられています。現在、日本のCO_2排出量は約9%増加しており、企業・市民が早急に省エネルギーなどを実行することが求められています。

2001年2月にオープンした環境配慮型店舗「エコロユニットショップ」第2号店について、その後の経過をお知らせします。

エコロユニットショップとは

「エコロユニット」とは工場で店舗のBOXユニットを製作し、店舗ができる現場で組み立てる工法です。建物の90%以上を工場内で建設するため建築廃材やコストを大幅削減できるほか、BOXユニットの再利用も可能です。「エコロユニットショップ」第2号店、八潮木曽根店（埼玉県八潮市）のオーナー、篠宮 努さんに1年間運営されたご感想をお聞きしました。

オーナーインタビュー

「私にとって八潮木曽根店は3店目なのですが、在来工法の他店と比べ、断熱効果のために夏の暑さなどの体感温度が3分の1くらい違うように感じました。また、冬は暖かい空気を逃がさない効果もありました。過ごしやすい季節には、冷暖房を使わないですみましたので節電効果もあるように思います。また、店内設計にゆとりがありますので、レジ周り、厨房、トイレなどが掃除しやすく衛生的だと感じました。お客さまからも「広くて、きれい」と好評です。エコロユニットは新しい取り組みですので、耐久性などが今後の課題だと思います。数年間かけて経過を見ていきたいと思っています。」

（左）篠宮 務
オーナー
趣味はジェットスキー。昨年、息子の影響で始めた。さらに小型船舶4級免許を取得。購入した船で大海原を駆け巡ることが今年の野望。

（右）篠宮 千夏
マネージャー
自ら先頭に立って感じのいい接客に努めている。従業員だけでなくお客さまにも慕われている。

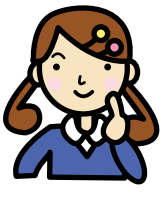
エコロユニットの改良について

非塩ビの材質の床

火山灰を素材とした完全不燃の内装ボード

エコマーク認定タイル

現在、ミニストップではエコロユニットショップの改良を進めています。店舗の部材については、「エコマーク」認定製品のタイルや、燃焼しても有害ガスを出さない非塩ビのポリオレフィン系の床材、火山灰が原料で完全不燃の内壁用ボード、長期間使用できる人口大理石のレジカウンターなど、可能な限り環境に配慮した材料を取り入れました。こうした部材は、在来工法の店舗でも積極的に導入する計画です。また、店舗の基礎にはリサイクルできるコンクリートを導入しました。工法も見直し、ユニットとパネルを組み合わせる「ユニットパネル工法」を開発しました。この工法では、建築現場で全く廃材が出ず、施工時の塗装などの作業が不要になるため、施工環境も大きく改善されます。また、今後の課題として、店舗の省エネルギーも積極的に進める計画です。エコロユニットショップは現在14店舗ですが、2002年は40店舗を計画しています。



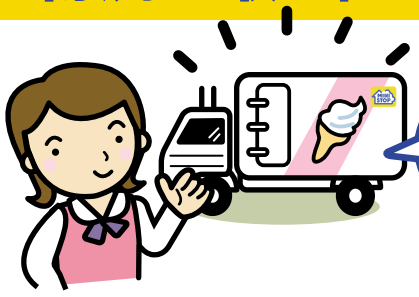
Q 「エコマーク」って？

A （財）日本環境協会が商品の製造、使用、廃棄時の環境負荷などを審査し、「環境によりよい」として認定した商品につけるマークです。このようなマークは環境ラベルと言われ、企業が独自に付けるマークや定量的なデータを表示するラベルもあります。

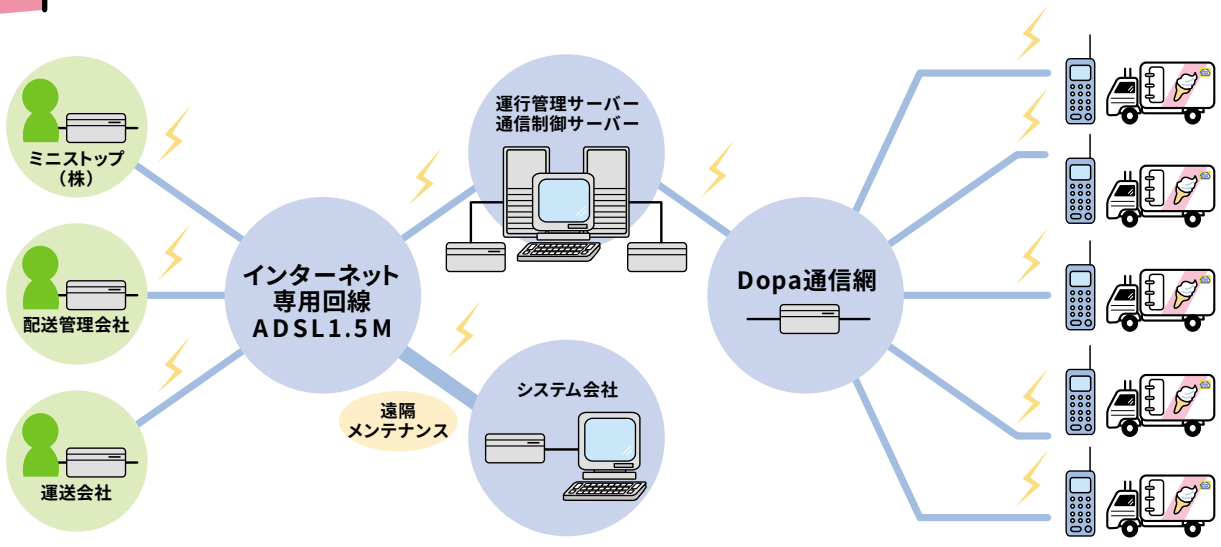
URL.http://www.jeas.or.jp/ecomark/

Programs for Distribution

物流の取り組み



CO_2の排出を抑えた物流に取り組むために、アイドリングストップを定量的に把握できるシステムの構築を始めました。



統合輸配送管理システムの仕組み

1.配送トラックに設置された温度コントローラーから車載端末に庫内温度データを吸い上げる
2.車載端末からDoPa（NTTドコモのパケット通信網）を経由してデータセンターのサーバーに1のデータを送信する
3.データセンターでデータ処理を行う
4.インターネットを通じて3のデータが配送センターへ送られる

統合輸配送管理システム

統合輸配送管理システムとは、無線通信とGPS（全地球測位システム）を活用することによって、物流センターから店舗への商品配送状況をリアルタイムで把握できるシステムです。2001年10月に千葉配送センターでの稼動トラック18台を皮切りに順次導入を進めています。

統合輸配送管理システム導入車　224台

〈期待される効果〉

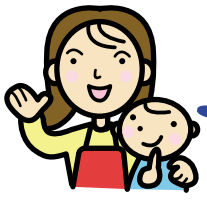
①車両1台1台のアイドリング状況や急ブレーキ・急発進状況の定量的把握が可能になり、ドライバーに対する個人指導が可能となりました。
②庫内温度状況をリアルタイムに把握できるために、適切な庫内温度を保って配送する指導が可能になりました。
③並行して利用している「配車支援システム」により最短の配送ルートを算出でき、CO_2の排出削減に間接的効果があります。

CO_2排出の低い車両の導入

CO_2の排出を減らすためには、よりCO_2の排出量の少ない「低公害車」を利用することが最も効果の高い方法です。ミニストップでは天然ガス（CNG）車を1998年から導入し続け、2001年度に1台追加し計7台となりました。

できる限りCNG車の導入を考えていますが、①燃費が悪い※1②天然ガスの補充所数が少ないために、補充所に近い配送センターのみの導入に限られる③CNG車の価格がディーゼル車よりも高く、また今まで行われた行政の補填が打ち切られる模様などの理由から積極的な導入が難しい状況です。

※1）ディーゼル車の燃費は5.4km／l、CNG車は4.8km／l



Q ディーゼル車は、環境によくないの？

A 最近では、ディーゼル車でも環境を配慮した車両があります。現在ミニストップで使用しているディーゼル車全てが、東京都環境条例で定められたPM(粒子状物質)の2005年の**排出基準※2を下回っています。**

※2）2001年4月1日に施行された「東京都 環境確保条例」で定められた基準。2005年からは規制を強化し、排出基準を0.18g/kWhとしている。

廃棄物削減の取り組み

店舗や事務所、お客さまから排出されるごみの削減までを考えた活動を行っています。リサイクルにも力を注いでいます。

ミニストップ4R

限りある資源を有効に使うために4つの方法で廃棄物の削減に取り組んでいます。

容器包装リサイクル法の遵守

容器包装リサイクル法では事業者にリサイクルの義務を課しています。ミニストップは完全施行された2001年から、財団法人　日本容器包装リサイクル協会へリサイクル委託料を支払うことによって事業者としての義務を果たしています。

この委託料は、財団法人　容器包装リサイクル協会からリサイクルを行う事業者へ支払われるため、ミニストップは間接的にリサイクルを行っていることになります。

割り箸の削減を進めています

1999年7月から弁当などを購入されたお客さまに声をおかけして、割り箸が必要な方のみにお渡しをする「一声運動」を始めました。しかし、2001年度は1店舗あたりの箸の使用量が増える結果になりました。レジでの声かけが不足だったことを反省し、2002年度はもっと声をおかけするように努めてまいります。

●1店舗あたりの割り箸使用本数

※高さ15m太さ30cmの白樺の木から約42,400膳の箸を作ることができます。

レジ袋削減対策

ミニストップでは、飲み物やガムなど単品でお買い上げのお客さまに対して「このままでよろしいでしょうか」「テープを貼るだけでよろしいでしょうか?」と一声かける運動を行っています。この「一声運動」を行っている結果、2001年度に比べて1店舗あたり枚数比3%のレジ袋を減らすことができました。

また、各自治体で行っているレジ袋削減運動に対して、ポスター掲示などに協力しています。

本部からの配布文書の削減

本部から店舗への情報伝達手段として印刷物を配っていました。またSA※1へも印刷物を配布して店舗指導が行われてきましたが、2001年度よりITを利用して紙の使用削減に取り組み始めました。

本部から店舗への連絡は、10月から衛星通信を利用し、また、SAに対しては9月からB5サイズのノートパソコンとPHSカードを支給してWebによる情報伝達を開始しま

紙の使用削減効果　45,050枚/週

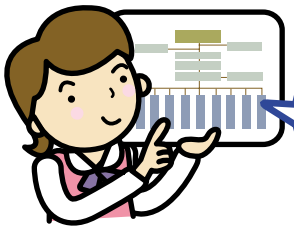
※1）ミニストップにおける店舗指導員のこと。
※2）企画書など一部の書類は回覧の必要性から印刷して配布しているため、完全に紙の使用を止めたわけではありません。

Q 正しいごみ箱マナーはご存じですか?

A 店舗の前にあるごみ箱には、家庭などから持ち込まれたごみが多く、全体の重量比20～30%にもなります。一部店舗では家庭から出るペットボトルを回収するところもありますが、それ以外は各自治体の指定日に決められたごみ集積所にお出しいただくことが原則です。皆さまのご協力をお願いします。

Environmental Management System

環境マネジメントシステム



環境マネジメントシステムとは環境活動を推進する手順（体制・責任・活動項目や計画等）を明確にした経営システムです。

ISO14001認証取得を目指して

ミニストップでは２００３年２月までにISO１４００１を認証取得することを目指し、２００２年４月２日にキックオフを行いました。これまでは環境委員会を毎月開催し、環境に関する取り組みを推進してきました。しかし、現状の環境負荷を数値で把握することや、PDCAサイクル※の運用についてはまだ取り組みが不十分な部分がありました。

社会的責任の増大をかんがみ、取り組み不十分な部分の徹底、環境法規の要求事項への対応を確実に行うため、今後はISO１４００１の認証取得を目指すことで環境マネジメントシステムの再構築をはかり、社内全体に環境への取り組みを浸透させます。

経営層の関与をより強固にしたPDCAサイクルを社内に定着させることと従業員への教育に重点をおき、継続性のある改善活動ができるように推進していきます。

※PDCAサイクルは、Plan（計画）→Do（実施および運用）→Check（チェックと是正）→Action（経営層による見直し）による継続的改善。

ミニストップの環境方針

ミニストップはフランチャイズシステムによるコンビニエンスストア事業の展開にあたり、環境の汚染予防を図るため下記の基本方針を定めます。

環境マネジメントシステムの構築

環境ISO規格を積極的に取りいれたマネジメントシステムを構築し、循環型社会の実現に寄与いたします。
事業活動を通じて生じる環境に及ぼす影響を自主的に評価し環境目的・目標を設定し、継続的改善を図ります。

法の遵守

環境保全に関する法規制、及びミニストップが同意する要求事項を遵守いたします。

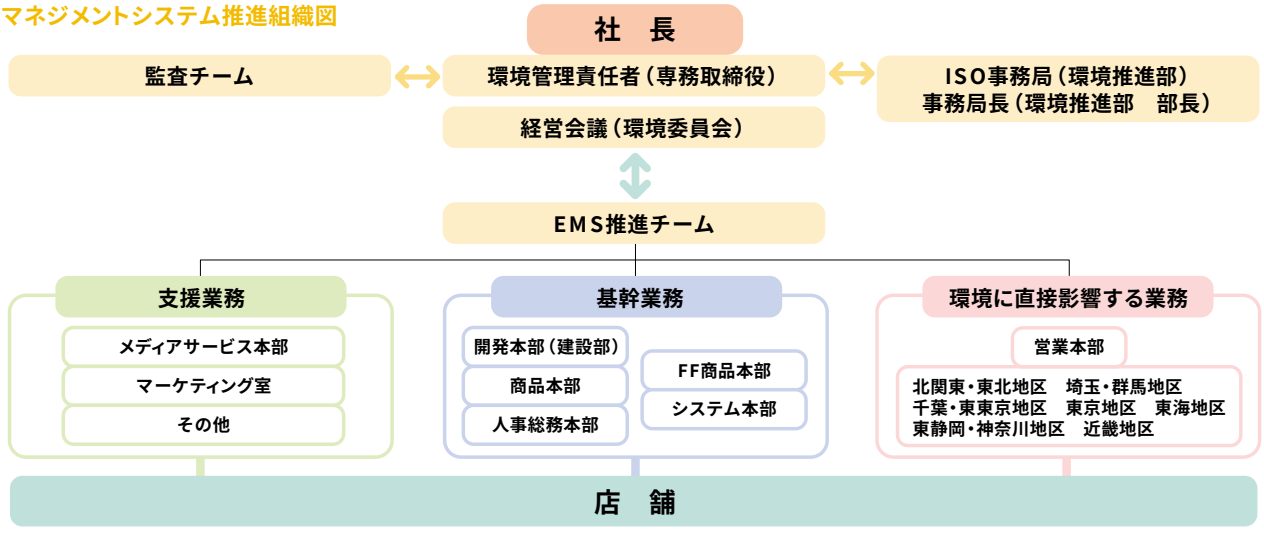
全従業員の参加

全従業員及びフランチャイズ契約者の環境保全・改善に対する意識の向上を図るため、積極的に啓蒙活動を行います。

方針の公開

この方針は広く一般に公開し、適切な情報提供につとめます。

環境マネジメントシステム推進組織図



業務評価との連動

ミニストップは小売業を営む者として、地域社会に対する多くの環境負荷を軽減することが義務と考えます。当然、社員はこの義務を果たしていかなければなりません。

しかし、会社が社員に強制しても表面的な取り組みであっては本質を取り違えてしまいます。そこで、一度でも活動や体験をしてもらうことを目的とし、環境保全・社会貢献活動を評価するシステムを取り入れました。

２００１年度は約２０％の社員が未記入でした。環境目標の教育が不充分であったと反省し、２００２年度は上司教育も含め目標設定について充分な啓発活動を行っていきます。

環境マネジメントシステムを構築するため、またステイクホルダーへの情報公開のためにミニストップは「環境会計」を前年度から導入しました。まだまだ試行錯誤の中での公表になりますが、少しでも社内外での活用ができるように今後も努めます。

2002年度　環境会計の特徴

1.環境目標の分類別／取り組み項目別に分類、わかりやすい「環境会計」にしました
2.算出可能な範囲においてみなし効果による経済効果を記載することにチャレンジしました

【取り組み別テーマ】 ＝人の安全　＝汚染物質の削減　＝地球温暖化の防止　＝オゾン層の保護　＝森林保護　＝廃棄物削減　＝教育・啓発　＝コミュニケーション・社会貢献

注1 加盟店負担も含む　注2 東海地区のみ　注3 本部事務所（イオンタワーのみ）　（単位=円）

カテゴリー	取り組みテーマ	取り組み内容	掲載ページ	環境保全コスト	環境保全効果	環境保全対策に伴う経済効果	効果に対する補足説明
商　品		容器包装リサイクル法の遵守 注1	P16	48,918,867	――	――	法を遵守してリサイクル料金を支払うとともに、不要な容器包装を減らします
		「商品」関連合計		**\48,918,867**		**0**	
店　舗		電圧調整装置（ミニセイバー）の導入　注1	P13	15,040,000	169.3tのCO_2を排出抑制	10,432,966	設置店舗全体で1,971.5tのCO_2を排出抑制しました
		HFインバーター導入　注1		店舗工事費に含まれている	13.1tのCO_2を排出抑制	811,668	104店舗に設置しました
		フロンの適正処理		36,501,000	――	――	138店舗で指定フロンから代替フロンへの切り替えを実施しました
		店舗への連絡文書をコンピューターで案内	P16	POSシステム構築費に含まれている	6.1tの紙の削減	45,000,000	紙1,232,000枚に相当します
		廃油をリサイクル・適正処理する　注2		3,409,350	320.4tの廃油をリサイクル	94,744	一部地域ではリサイクルによる事業収入として計上しています
	その他	節水バルブ使用による水節約 注1	P13	1,392,000	11,692.8m³の水を節約	6,148,000	東京都上下水道料金（530円/1,000ℓ）で換算しています
		「店舗」関連合計		**\56,342,350**		**\62,487,378**	
物　流				――	――	――	
		「物流」関連合計		**0**		**0**	
オフィス		古紙リサイクル　注3		598,808	2.1tのCO_2を排出抑制	――	直径14cm、高さ8mの木約225本の伐採抑制に相当します
		「オフィス」関連合計		**\598,808**		**0**	
教　育		新規加盟店オーナーおよび新入社員対象の環境教育	P19	185,914	205名のオーナー候補および43名の新入社員が受講	――	――
		環境委員会出席者・環境推進部の人件費		13,793,952	――	――	容器包装の材質識別表示を実施する取り決めなどを行いました
		「教育」関連合計		**\13,979,866**		**0**	
コミュニケーション・社会貢献		エコロジーミュージカル「瓶ヶ森の河童」への協賛	P20	7,946,970	3,627名の観客動員	――	成田・今市・三好・桑名の4公演を協賛しました
		環境報告書やミニストップメイト」発行およびHP製作	P19	4,932,035	――	――	環境報告書を5,000部、ミニストップメイトを12,000部発行しました
		「花の輪運動」を支援	P20	3,701,984	350校の小学校へ花や木の苗を寄贈	――	財団法人　花と緑の農芸財団への寄付金8,750,000円は店頭募金によるため含みません。運営費のみ
		環境関係のNGOへの寄付		13,570,000	NGOの活動を支援するイオン環境財団を通じ寄付しました。イオン環境財団は185件の活動の支援	――	イオン環境財団の支援金の約20%がミニストップからの寄付金に該当します
		「コミュニケーション・社会貢献」関連合計		**\30,150,989**		**0**	
総合計				**149,990,880**	**62,487,378**		

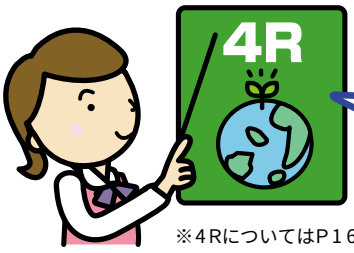
【備考】
1.「物流」の取り組み内容に対する算出は、下記対象範囲においてコスト負担がなかったために計上しませんでした。　**2.**いわゆる「環境損傷対応」に関するコストは発生しませんでした。

【算出条件】
環境省「環境会計ガイドブック」「環境会計ガイドライン（2002年版）」に準拠して作成。
環境省「環境活動評価プログラム」よりCO_2排出算出係数として0.384kg-CO_2/kWhを使用。
1.対象期間　2001年度（2001年3月1日～2002年2月28日）
2.対象範囲　ミニストップ株式会社及び加盟店
※1一部の項目にはミニストップ株式会社とエリアフランチャイズ契約を結んでいる以下の会社の加盟店も含む。
●エヌ・ビー・ジーエムエスネットワーク株式会社（青森県・岩手県）
●ミニストップ近畿株式会社（大阪府・奈良県）
●ジェイアール四国エムエスネットワーク株式会社（香川県）
●株式会社ルマックス（福岡県・佐賀県・大分県）

※2一部会計情報では、限定された地域のみの算出を行っている。
※1・2により、ミニストップ株式会社における決算数値とは異なる。
3.環境保全コスト
直接識別できるコストおよび、複合コストを算出。複合コストについてはできる限り按分集計を実施。
4.環境保全効果
物量データおよび算出可能な範囲においてみなし効果による貨幣値を記載。
5.人件費
環境推進部に専属している従業員のみ計上。
環境委員会出席による人件費は（単価）×（所要時間）にて計上。
6.減価償却費
過去のデータ把握が困難であり取り扱い方法未確定のため、計上しない。

Environmental Education

教育・啓発



ミニストップの全員が環境について学んでいます。

※4RについてはP16参照

環境教育への取り組み

2001年4月の新入社員教育のほか、新規加盟店のオーナートレーニングに環境教育のプログラムを追加しました。2001年9月からは社員全員の目標管理制度に環境目標の項目を追加、各自が環境・社会貢献活動の取り組みについて目標設定を行いました。

評価は減点法ではなく、業績評価に＋αにする形式としています。毎月第2土曜日に実施している上野公園清掃活動への参加や、本部事務所のコピー枚数の削減などで効果がありました。

2002年度は、ISO14001認証取得を目指す過程で全従業員が環境教育を受ける体制を構築するとともに、EMS認定審査員の養成も計画的に実施、継続的にPDCAサイクルの運用・改善活動ができる組織を目指します。

新入社員への講義

ミニストップメイト※1に環境問題を連載

店舗とその従業員向けに、隔月の広報誌「ミニストップメイト」を配布しています。「ミニストップメイト」には環境・社会貢献に関する情報を毎回掲載しています。

掲載内容

発行月	掲載した内容
2001年　3月	食品リサイクル法
2001年　5月	食品の表示（原材料・遺伝子組み換え・栄養成分）
2001年　7月	エコロユニット工法
2001年　9月	食品添加物の種類と安全性
2001年 11月	割り箸について（なぜ木で作られるのか）
2002年　1月	割り箸について（環境に配慮している点）

※1）ミニストップメイトは、本部と加盟店を結ぶ広報誌です。

オーナー向けの説明会で環境教育・啓発

毎年、春と秋の年2回開催している商品売場説明会を活用し、加盟店の方々にミニストップの環境方針を伝えています。会場内ではごみの分別を行ったり、減農薬米の説明コーナーを設置するなどし、環境配慮型商品への理解を深めていただいています。環境関連の法律について、パネルを展示し、わかりやすく丁寧に説明しています。

減農薬米を試食しながら学習

店舗のオーナーも環境教育を受講

新しく店舗を経営されるオーナー候補を対象に環境・社会貢献に関する講義を2001年9月から実施しています。講師は社員が行い、オーナー候補は、店舗経営していく上で関連のある環境法規やミニストップで実施している社会貢献活動について学習します。今までにのべ16回の講義を実施して205名のオーナー候補が受講しました。今後もカリキュラムを常に見直して講義を実施していきます。

リサイクル法関連の講義

自治体への協力

各自治体が実施する環境問題の啓蒙アピール活動にはできる限り協力しています。例えば2001年9月2日に行われた名古屋市「環境デー名古屋」で自社の環境取り組みをアピールし、2002年3月4日に板橋区で行われたお客さまとの意見交換会にJFA※2の代表として参加しました。

昇格試験に環境報告書の内容が出題されました

昇格試験の筆記試験の必修課題に環境報告書を挙げ、また面接試験では面接官である私が環境・社会貢献に関する質問をしました。

まだまだ、ミニストップの環境・社会貢献活動の内容を社員が把握できていない場面に遭遇し、もっと社内環境教育を実践していかねばならないことを実感しました。

（環境管理責任者　専務取締役　井上　雅之）

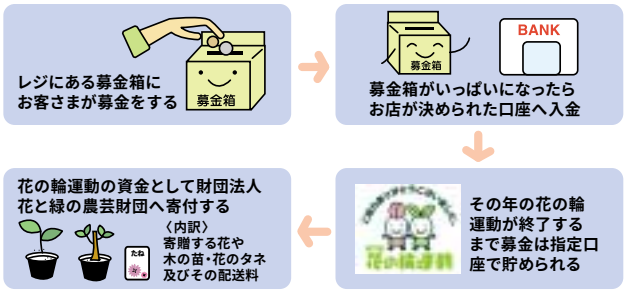
社会とのコミュニケーション活動

「花の輪運動」をはじめ、社会貢献活動に取り組んでいます。

「花の輪運動」って？

次世代を担う子供たちに「花と緑を協力して植え育てることを通して、生命の大切さを知ってもらうこと」を目的に、1990年から財団法人　花と緑の農芸財団が取り組んでいる活動です。

お客さまからいただいた募金の流れ



「花の輪運動」小学校訪問

「花の輪運動」は11年目を迎え、2001年度は350の小学校に花や木の苗を贈り、通算2,135校の小学校へ寄贈したことになりました。

12店舗のオーナーが小学校を訪問して一緒に苗を植えました。

小学生と一緒に苗を植える金岡町店　田中利彦オーナー（手前左）

八幡学園バザーへの参加

社会福祉法人春濤会　八幡学園（千葉県市川市）の父母の会が主催しているバザーに毎年出店しています。商品サンプルや従業員から集まった物品を販売し、売上金は全て、八幡学園父母の会へ寄付しています。

お客さまとの会話を楽しみながらも必死に売りさばく

募金活動

1.店舗が地域とコミュニケーションをはかることを目的とした募金活動→「花の輪運動」
2.イオン全体で行う募金活動→「アフガニスタン難民救済支援募金」など

アフガニスタン難民救済支援募金授与式（2001.12.26）

募金一覧

募金名	募金期間	募金金額	募金寄付先
地雷ZERO キャンペーン	4/27～5/6	812,898円	地雷ZEROキャンペーン委員会
カンボジア 学校建設募金	6/21～6/27	763,653円	財団法人　ユニセフ協会
米国救済活動 支援募金	9/20～10/25	488,466円	日本赤十字社
パッチ・アダムス「夢の病院」建設募金	9/26～10/8	489,183円	「夢の病院」建設協会（Gesundheit Institute）
アフガニスタン難民救済支援募金	11/3～12/14	2,471,050円	特定非営利活動法人（NGO）ジャパン・プラットフォーム
花の輪運動	通年	8,750,000円	財団法人　花と緑の農芸財団
お客さまからの募金総合計		13,775,250円	

イオン1%（ワンパーセント）クラブ

イオン1%クラブは1989年に設立され、グループ優良企業で構成されています。「環境の保全」「国際的な文化・人材の交流」「地域の文化・社会の復興」を目的とした活動に充てるために、各社は税引前利益の1%をイオン1%クラブに拠出し、活動を支援しています。

イオンとの活動取り組み

活動名	活動時期	活動内容
エコロミュージカル「瓶ヶ森の河童」協賛	2001.4～2002.2	成田（千葉県）をはじめとした4公演を協賛し、従業員が公演のお手伝いをしました
マレーシア「小さな大使」協賛	2001 11.12	マレーシアの高校生がホームステイすることを支援しました
「カンボジアの子どもたちに絵本を贈ろう」キャンペーン	2001 11.30～12.25	ジミー大西氏が描いた、「トーテンくん」のポストカードや本を売ったお金でクメール語版のトーテンくんの絵本をカンボジアに寄贈しました
「里山プロジェクト」などへの協賛	2001.11	主催者のイオン環境財団へ事業費を寄付しました

「花の輪運動」で苗をもらったよ！
（小学生からの手紙より）

前は「パンジー」と「ビオラ」のなえをありがとうございます。みなさんが花をくれたおかげで、ぼくらの小学校もとてもより☆きれい☆になりました。
みなさんのおかげです。
ありがとうございました。
ぼくは6年生なので、来年はいないので、ぼくの「手下」（こうはい）と仲良くしてくださいね。
では、またいつか。

コンビニエンスストアへのQ&A

ミニストップではお客さまとの双方向コミュニケーションを大事にしています。
2001年秋に学生の皆さま（こんびっつ）からコンビニエンスストアの環境の取り組みについて
ご質問やご意見をいただき、ミニストップの考えをご説明しました。今回はその一部をご紹介します。

Q 環境配慮型商品について

コンビニエンスストアの環境配慮型商品の販売は、始まったばかりで日が浅く商品自体が少ないと思います。環境配慮型の商品を増やしてお店で目立つように宣伝したり、お客さまの購買動向を調査することを提案します。環境配慮型商品について、どのように取り組んでいますか？

A ミニストップではイオンの開発商品であるトップバリュを積極的に導入しております。その取り組みの中で環境配慮型商品の導入も進めています。ミニストップの開発商品については、パッケージ印刷のインクを環境にやさしいものを使用するなどの取り組みをはじめています。ただ売場で環境配慮型商品のアピールは十分できていません。もう少し取り扱い品目が揃ってからになるでしょうが、今後の課題ですね。せっかくの環境配慮型商品も商品本来の機能が汎用品に劣ったり、価格が高かったりしてはお客さまからのご支持が得られません。販売動向に注意して価格や品質についても吟味してご満足いただける品揃えを目指します。

Q 廃棄物について

コンビニエンスストアでは、店頭でビン・缶、ペットボトルの資源ごみを分別回収していますが、可燃、不燃のごみ分別がほとんどなく、またごみ排出量の把握はされていないようです。ごみ削減のために本部でお店のごみの排出量を把握したり、店頭のごみ回収箱を地域の家庭ごみの分別と同じにしたら消費者のごみ分別意識の向上につながりませんか。

A 回収したごみは、専門の業者と契約し、有料で回収処理を委託しております。回収業者からの分別の要請がある地区は可燃・不燃の分別の対応をしています。ごみの排出量については、食品リサイクル法へ対応するために、調査をはじめております。最近は家庭ごみの店舗への持込みが増えてきて困っている店舗が増えております。ご家庭のごみについてはお客さまご自身での適正に処理していただくようお願いいたします。

Q レジ袋について

日本では1年間に280億枚のレジ袋が消費されています。レジ袋は大量のゴミになりますし、これだけのレジ袋を製造するには、日本が輸入している約1日分の原油が必要です。お客さまに「レジ袋が必要ですか」と声をかけたり、レジ袋を断ったお客さまに景品を提供するような『レジ袋削減キャンペーン』を提案します。レジ袋の問題についてどのように取り組んでいますか？

A レジ袋については、従業員の声かけにより　削減の協力をお客さまにお願いをしております。また、杉並区のレジ袋税問題をきっかけに、業界全体の問題として対策に取り組むようになってきました。割り箸の削減同様、お客さまのご理解・ご協力が必要です。ある時期だけのキャンペーンとして実施するのでははなく継続的に取り組んでまいります。

「こんびっつ」について

コンビニエンスストアは生活に密着し、なくてはならない存在ですが、その環境負荷は無視できるものではありません。特に私たち学生はコンビニエンスストアに非常に依存しており、コンビニエンスストアの環境問題を考えることは私たちの責任でもあると考えて、この調査をはじめました。メンバーは約20名で、早稲田大学・上智大学・東邦大学・創価大学・法政大学・獨協大学・東京女子大学に在籍している学生です。コンビニエンスストアの店舗と本部を調査し、「コンビニ環境読本」を製作しています。（「コンビニ環境読本」は完成後web上で販売します。完成後、こんびっつの活動は終了します。）

URL.http://isweb30.infoseek.co.jp/school/er_hp/convits/conuindex.html

第三者意見書

環境報告書に寄せて

向井 征二

オービス環境マネジメント研究所　代表
環境省登録環境カウンセラー（事業者部門）
NPO法人環境市民理事／
環境市民東海代表幹事

諸外国と同じく日本でも環境報告書に第三者意見を掲載することが一般化してきましたが、たまたま初号から3回連続して第三者意見執筆を依頼いただくことになったため、初号から3号まで改めて精読してみました。

並べてみると、「大胆」と言って過言でないほど、前号にとらわれず、大きく誌面構成を刷新し、進化し続けていることがわかります。企業経営にとって最も大切な「ゴーイングコンサーン（永遠の発展）」をめざし、社長の座右銘のように、若い社員たちを主体に全社あげて「真摯」に環境問題に取り組んでいることがよく読者に伝わってきます。

読者といえば、内外の環境報告書を事例研究している私にとっても、「消費者」「店舗オーナー」「社員」など具体的な読者を明確に想定し、その読者に向かってわかりやすく語りかけるという編集手法はとても新鮮です。ともすれば若い担当者の冒険を許さずに、前号を踏襲して無難な内容にまとめがちなわが国の環境報告書のあり方、というよりも、企業文化に波紋を投ずる作品と言えるでしょう。社長と市民、NPOの人たちとの対話を環境報告書の冒頭に持ってくるやり方も、NPO活動に取り組んでいる私の立場から、たいへんに共感を覚えました。

環境目標が前号と同じ方式で、対前年比で明快に一覧表で示されています。他社と比較しても遜色のない、よく目配りした目標設定です。31項目の2001年度目標のうち、「ほぼ達成」が18項目、「もう一息」が5項目、「未達」が8項目という自己評価結果が甘いのか辛いのかはともかく、達成度がわかりやすく示されているのも進化のひとつでしょう。

全国に5万店舗といわれるコンビニエンスストアは、この10年間で店舗数にして2.5倍、CO_2の排出量も2倍になった、と指摘されています。この数字からもわかるとおり、店舗あたりのCO_2の排出量はさほど増加していません。当社においても、考えられる省エネ努力を払っている様子がうかがえますが、「エコロユニット店舗」の展開を加速させるなどの企業努力がさらに求められるでしょう。そうした店舗における環境への取り組みに比べて、本部などオフィスにおける取り組みが弱体である現状も読み取れます。社員の環境意識が甘いことの現れでないことを祈ります。

なお、誌面の都合か、項目ごとの評価内容が示されていません。環境マネジメントシステム構築中の当社では、まだ内部監査の仕組みが確立されていないと思われますので、どんな仕組みで誰が自己評価したのか、簡単に触れておくべきでしょう。さらに、社長の「環境宣言」5項目に対応して、当年度の重点課題とその達成状況への経営層の評価を、社長ないし環境管理責任者のコメントとして示して欲しいところです。

前号に続いて環境会計に取り組んでいます。前号ではトライアルだったため、環境省のガイドラインそのままで実験的に試算した結果が別紙差込みページで挿入されていただけでしたが、今号では、ガイドラインに準拠しながらも、自社の環境目標の区分に従ってカテゴリーも評価項目も分類し、結果をわかりやすく開示した自助努力と独創性を高く評価したいと思います。いわゆる「みなし効果」による経済効果にもチャレンジしている点も見逃せないでしょう。

さらに分析技法に習熟し、経営者の意思決定ツールに役立つようなレベルに進化させていくよう、今後の努力に期待します。

環境報告書ではありませんが、当社の加盟店オーナー募集案内を見ると、「環境」というキーワードに全く触れられていないことに驚きました。環境への取り組みが今後は企業の価値＝株価をも左右する時代になることを、経営層のみならず、社員全員が認識することが求められます。この募集案内が環境部署と無関係のところで作成されたゆえと想像しますが、そんな縦割り行政を打破し、環境を事業経営の中核に据えた、骨太の環境経営を実現することを、ミニストップというまじめな会社の企業風土を愛するひとりのファ

第三者意見を受けて

環境管理責任者　専務取締役
井上 雅之

地球温暖化防止のため「京都議定書」（日本の目標CO_2排出6％下げ）実現にむけ、英知を搾り、アクションをおこさなければなりません。それは、「イオンは、日々のいのちとくらしを、開かれたこころと活力ある行動で、『夢のある未来』に変えていきます」の、＜イオン宣言＞の実現に通じるものであり、我々の子孫のためにも重要な意味があります。今後ISO14001の認証取得に向けて環境マネジメントシステム再構築に努めてまいります。弊社では企業が永続的に存続するためには、環境問題への取り組みは不可欠と考えております。今まで様々な環境配慮への取り組み、社会貢献活動を行なってきたと自負しますが、地球環境の破壊はそれ以上のスピードで進んでいます。内部監査の仕組みは、毎週の経営トップが参加する「経営会議」で、アクションを発表するなどで解決していきたいと思います。

編集後記

- 対外的には「できることからひとつずつ」と穏やかな?私ですが、社内では「できるまで徹底的に」の鬼軍曹役で取り組み推進中です。（川越靖史）
- この環境報告書を皆さんに読んでもらうことで我々の活動の1つが達成されます。アンケートをご記入いただけると更に!（須藤和幸）
- 今、地球が環境面においてどのような状況下に置かれているかを人類一人ひとりに知っていただきたいと思います。（野口秀明）
- 「ミニストップはこんなことをやってるのか!」と、まずは感じてもらえれば制作冥利。もちろんもっともっと…。（岡村幸代）

木を植えています
私たちはイオンです

稲刈りツアー

ミニストップは次世代を担う子供たちへの環境教育にも力を注いでいます。2000年度から始めた稲刈りツアーは、加盟店の子供たちへの環境教育の一環として企画しました。

2001年度は加盟店のオーナーとその家族が一緒に山形県の生産地を訪問し、弁当用の減農薬米の稲刈り体験をしました。実際に体験することで、今までよりも自信をもって弁当をお薦めしたり、生ごみの量を減らしたいという気持ちに結びついています。

自分が販売する商品がどこで作られ、どのように再資源化されるのか、販売に関わる方々がよく知ることで、環境への関心が高まりました。

JA全農山形の皆さまのご協力で、2001年度は13組40名が減農薬米の稲刈りを体験しました。

おいしいものを食べると自然に顔がほころびます。おいしい食べ物は人の体にも自然にもやさしいのです。

人の歯は臼歯20本・門歯8本・犬歯4本と5対2対1の割合で構成されています。穀物の割合が増えるほど臼歯が発達するため、歯の多い順から穀物・野菜・肉類を摂取するのが、人にとっての自然食との説があります。

ミニストップでは古来より日本人の体を作る「かなめ」であった米を通じて、環境問題に取り組んでいきたいと考えています。減農薬米の導入や生産農家と一緒に行う田植えツアーや稲刈りツアーもその試みのひとつです。

◎お問い合わせ先／ミニストップ株式会社
CS本部　環境推進部　川越靖史・須藤和幸・野口秀明・岡村幸代
〒101-0054　東京都千代田区神田錦町1-1　神田橋安田ビル3F
TEL.03-3259-5284（ダイヤルイン）　FAX.03-3294-2051
http://www.ministop.co.jp/

本報告書は上記のインターネットホームページでもご覧いただくことができます。また、PDF形式のダウンロードもできます。
◎発行日　2002年5月　通算第3号　◎次回発行日は2003年5月を予定しています。　◎制作協力／株式会社クレアン

この報告書はエコマーク認定の再生紙・古紙の利用100%（白色度85%）の再生紙OKマットコートグリーン100を使用しています。
また、印刷には水なし印刷対応型の大豆インキを使用しています。大豆インキは生分解性や脱墨性に優れ、印刷物のリサイクルが容易です。